

平成30年度全国学力・学習状況調査
児童生徒質問紙調査の分析結果と改善方策(概要)

※全国との比較で、大きな違いがあった主な項目をまとめた。

(囲み内の数値は、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合を合わせた数値と全国との差を示す)

【分析結果 1】

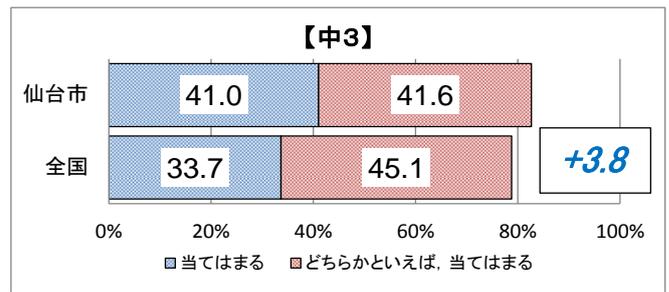
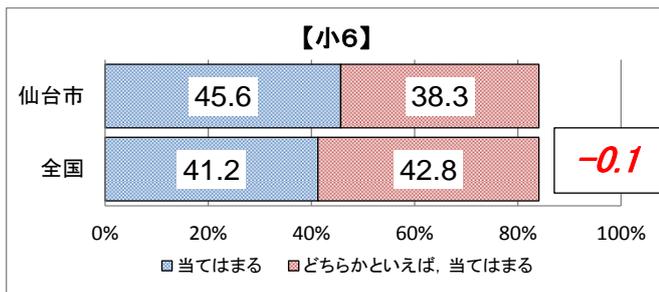
「自分には、よいところがあると思う」という自己肯定感に関する項目について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生は全国と比べて同等であり、これまでで最も高い割合となっている。また、中学生は全国と比べて高く、これまでで最も高い割合となっている。

「いじめはいけないことだと思う」と回答した児童生徒の割合は、全国と同等である。

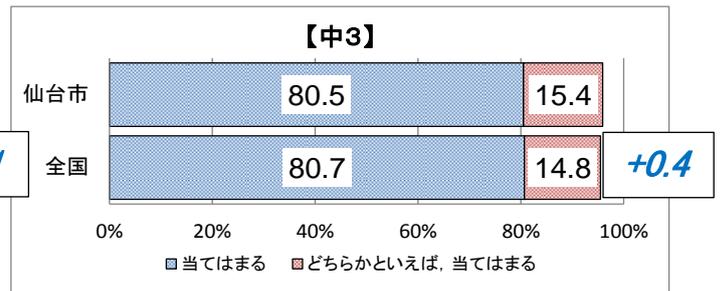
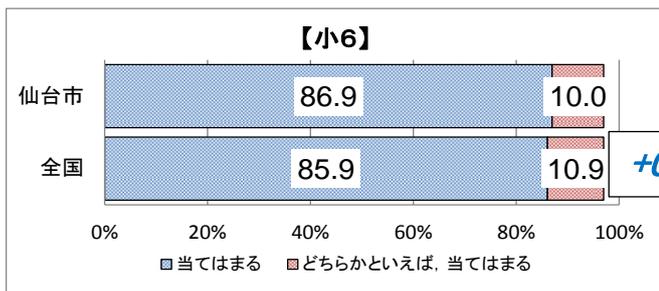
「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて、やや下回る。

なお、以上の3項目において、肯定的に回答した児童生徒は、いずれも8割を超えるが、否定的に回答した児童生徒にも目を向けることも重要である。

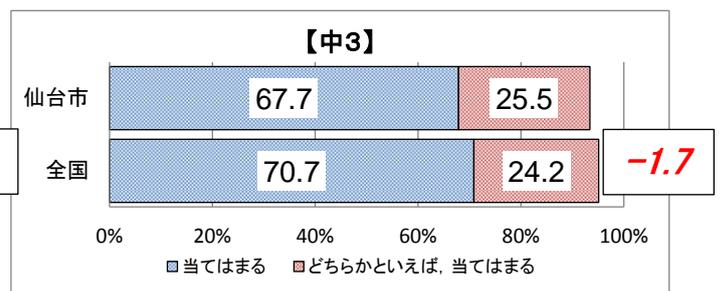
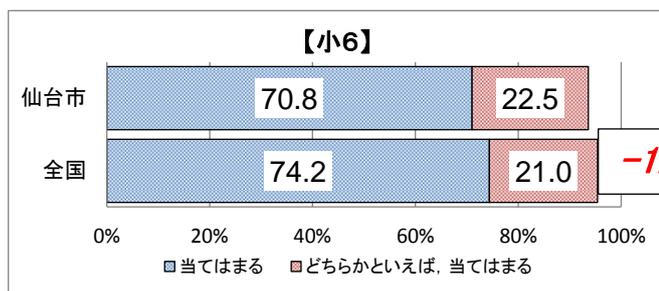
1. 自分には、よいところがある



5. いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う



6. 人の役に立つ人間になりたいと思う



□指導改善の方策

○ **たく生き（たくましく生きる力育成プログラム）の実践**

- ・お互いの良さを認め合ったり、自己肯定感を高めたりすることができるように、「たく生き授業プラン集」の活用を各学校の自分づくり教育年間指導計画に位置付け、自己肯定感を高めるプランとともに、自己肯定感と相関の高い挑戦心・主張性を育てるプランなどの計画的な実践を、引き続き行っていくようにする。

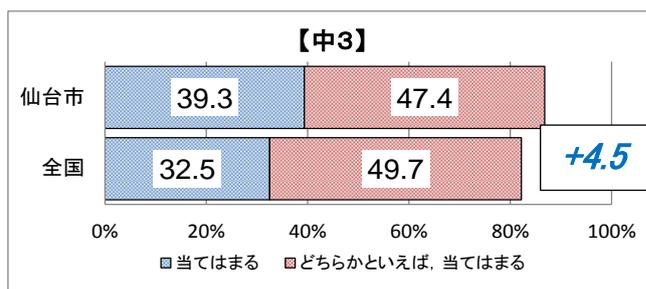
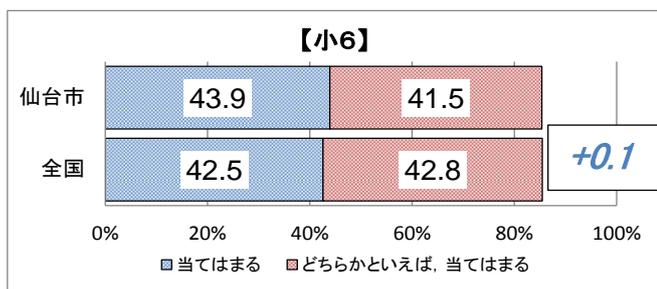
○ **他者との関わりの中で、人の役に立っていることを実感させる場の設定**

- ・学校の諸活動において、児童生徒の取組について、共感的に認めたり、励ましたりする場面や人の役に立っていることを実感させる体験を意図的に設けるようにする。また、道徳や自分づくり教育を通して、他者を大切にする気持ちを育みながら、集団の一員としての自信や誇りを獲得させるようにする。さらに、与えられるのではなく、子供たちが自分で主体的に考え、行動したことに対して肯定的な評価を与えることが有効である。

【分析結果 2】

「教員との関わり」に関する項目において、先生はよいところを認めてくれていると回答している割合は、小中学生とも前年度より増加し、小学生は全国と同等となり、中学生は全国を上回っている。

2. 先生は、あなたのよいところを認めてくれている（小38）



□指導改善の方策

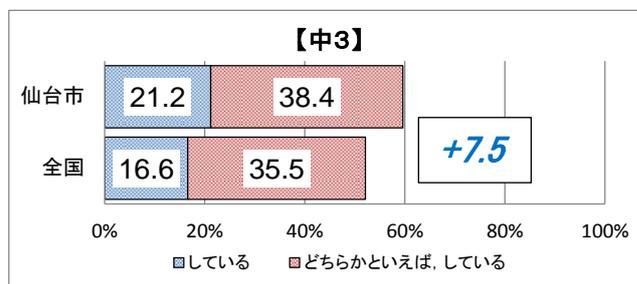
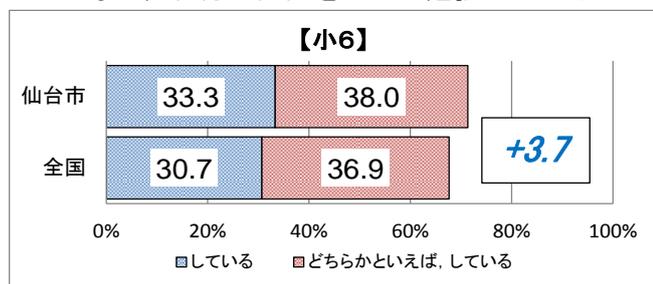
○ **児童生徒の変容の共有化**

- ・各教科、教科外等、様々な場面での児童生徒の変容について学校内で共有し、児童生徒の取組の過程について認めるようにし、子供のよさや学習状況等を深く把握するように努める。

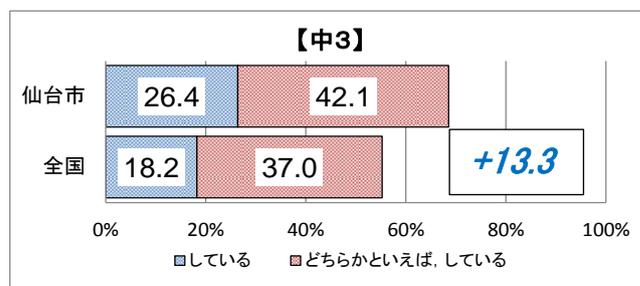
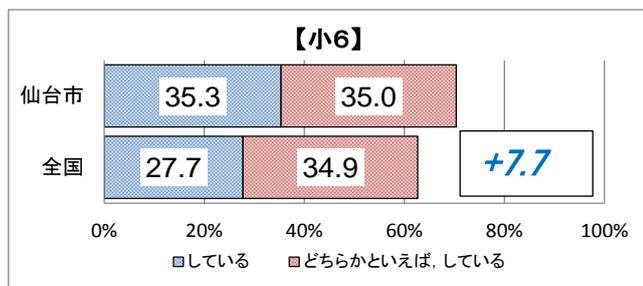
【分析結果 3】

家で、自分で計画を立てて勉強をしたり、学校の授業の予習や復習をしたりしていると回答した児童生徒の割合が全国に比べて高い。

10. 家で、自分で計画を立てて勉強している



12. 家で、学校の授業の予習・復習をしている



□指導改善の方策

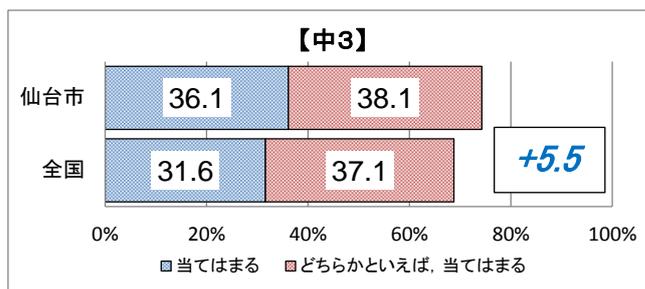
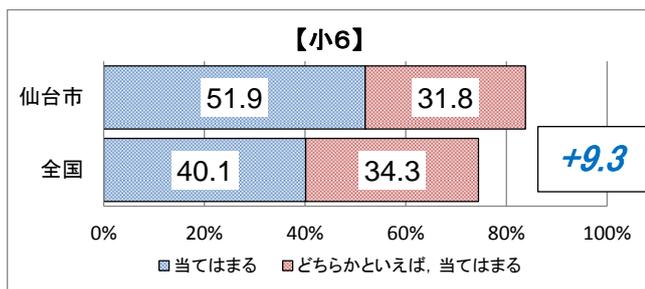
○ 児童生徒が学びや変容を自覚し、課題を持たせるような指導

- 各教科において、児童生徒が学びや自己の変容を自覚できるように、自分自身で課題を把握して目標を立て、改善のための「学習計画」を立てるなど、意図的に家庭学習の習慣の定着を図るようにする。

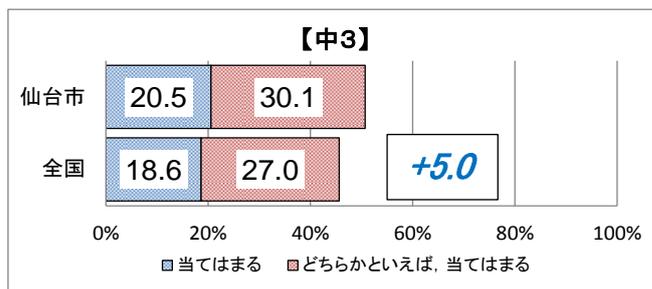
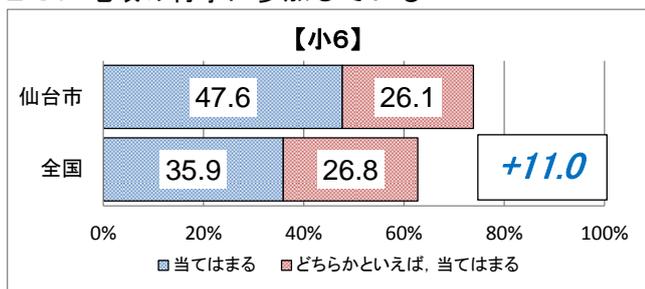
【分析結果 4】

「地域との関わり」に関する項目について、児童生徒は、全国を大きく上回り、地域との連携が進み、地域への関心が高まってきている。一方で、小中学生とも地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらおうなどの取組は、全国より低い状況である。

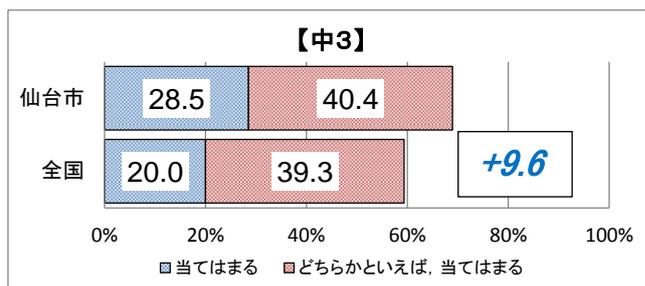
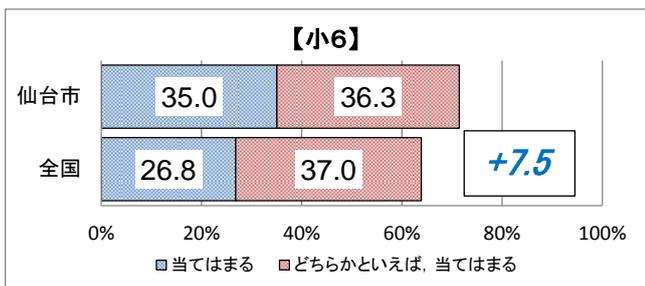
19. 授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う



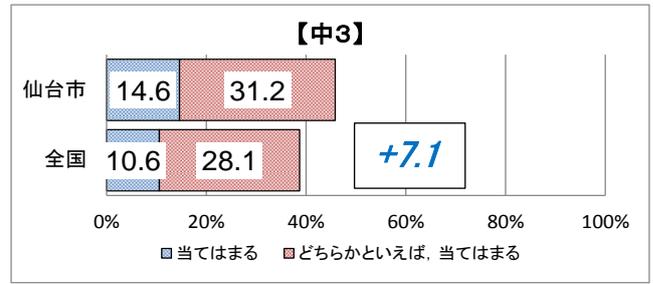
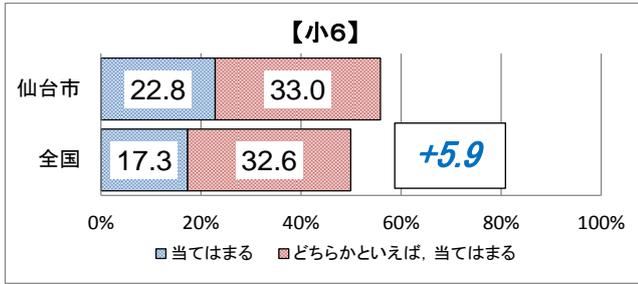
20. 地域の行事に参加している



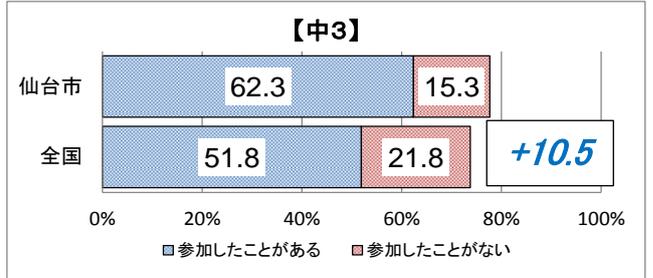
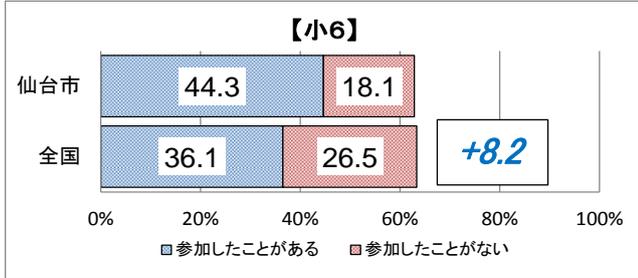
21. 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある



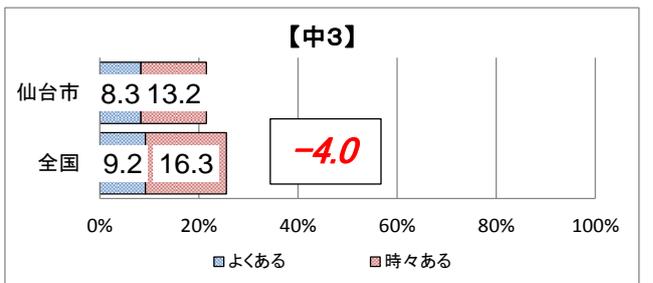
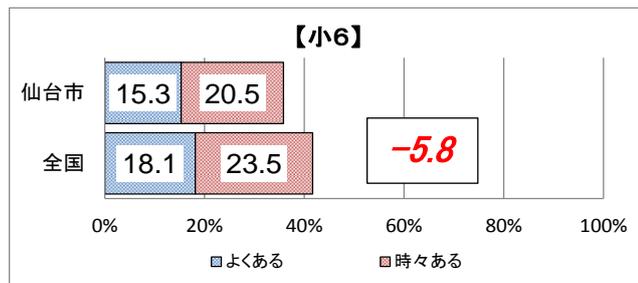
2.2. 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある



2.3. 地域社会などでボランティア活動に参加したことがある ※ 囲み内の数値は「参加したことがある」と回答した児童生徒の割合(青帯)の差



2.4. 地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある



□指導改善の方策

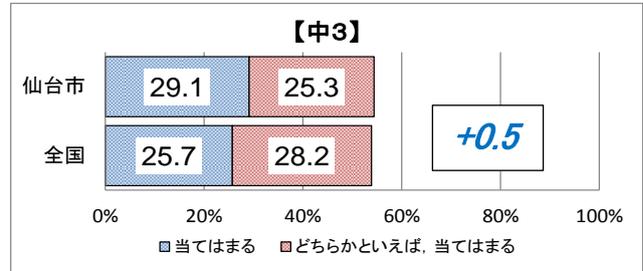
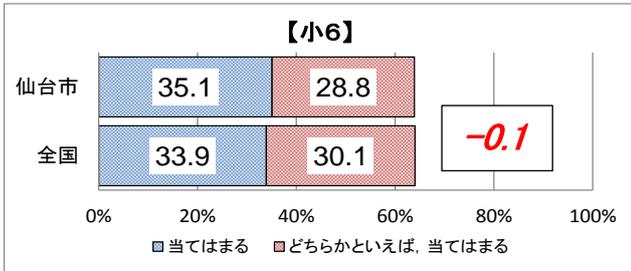
○ 学校支援地域本部を意図的・計画的に活用する

- ・新学習指導要領で打ち出された「社会に開かれた教育課程」を実現するために、児童生徒の現状や課題や身に付けさせたい力等を学校・家庭・地域と共有し、学校支援地域本部などの活用を通して、連携・協働できる体制を整えるように努める。そして、学校の求めと地域・家庭の持つ力をマッチングし、より質の高い支援に結び付くように、意図的・計画的に児童生徒と地域が関わる場を設定するようにする。

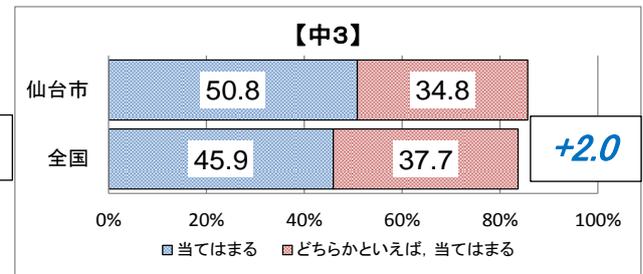
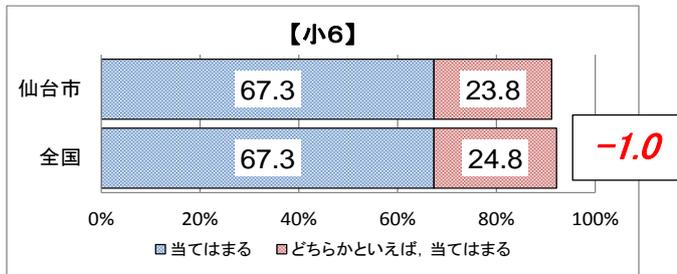
【分析結果 5】

算数・数学では、関心・意欲・態度に関する項目において、肯定的に回答する児童生徒の割合は、中学生は全国よりやや上回るものの、小学生において、やや下回る。また、「算数・数学の授業の内容はよく分かる」と回答した割合は、小中学生ともに全国を下回っている。

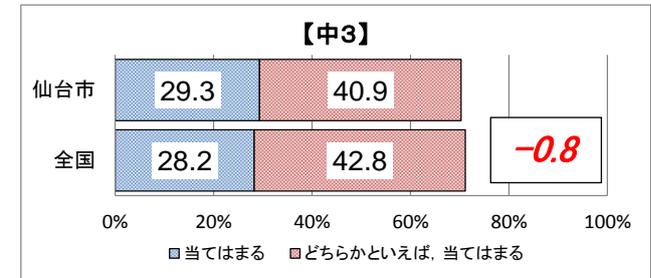
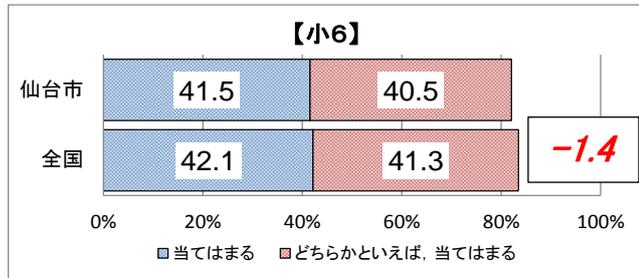
27. 算数・数学の勉強は好きですか



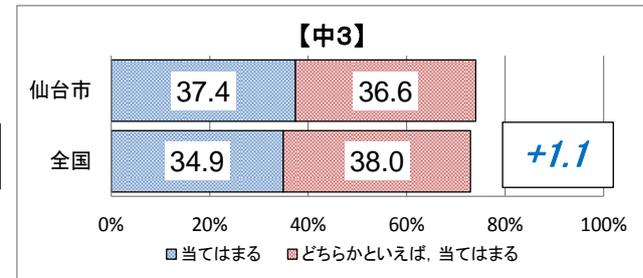
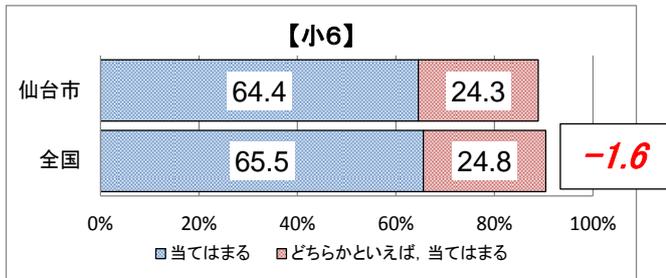
28. 算数・数学の勉強は大切だと思うか



29. 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか



33. 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



□指導改善の方策

○ 実社会・実生活との関連を図った指導の工夫

- ・実社会・実生活での事象と学習内容とを関連付けて指導するなど算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養うようにし、算数・数学を学ぶ意義に気付かせるようにする。

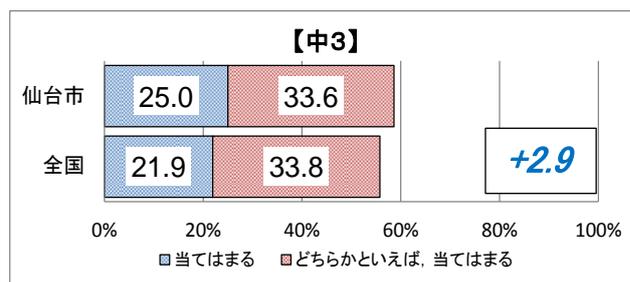
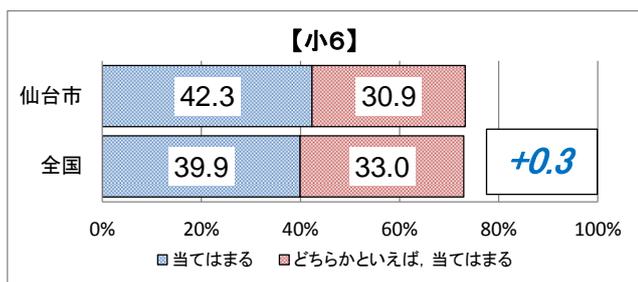
○ 市標準学力検査の結果を踏まえた指導改善方策の実践

- ・市標準学力検査の結果及び児童生徒の実態を踏まえて、各学校で作成した指導改善方策について、継続的な実践を図る。また、確かな学力研修委員による提案授業の参観や、これまでの指導改善事例を集めた事例集を参考にした実践を通して、確かな学力を身に付けさせると共に、教員の授業力の向上を図っていく。

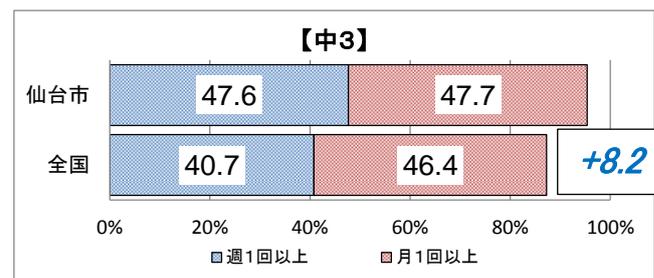
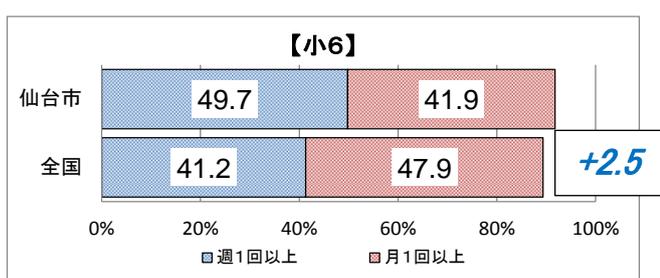
【分析結果 6】

理科では、「理科室で観察や実験を月1回以上行う」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて上回っている。「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てる」「観察や実験の結果からどのようなことが分かったのか考察する」「観察や実験の進め方や考え方に間違いがなかったか振り返る」と回答した中学生の割合は、全国と比べて大きく上回っている。

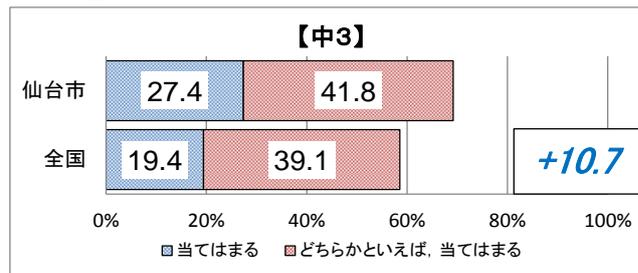
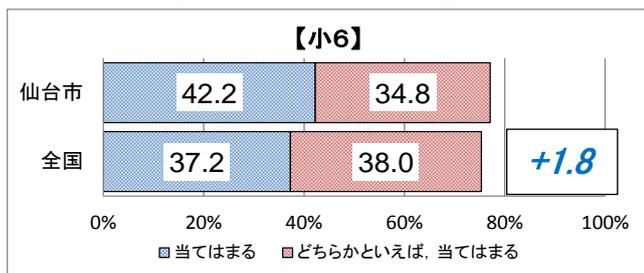
4 3. 理科の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役立つと思う。



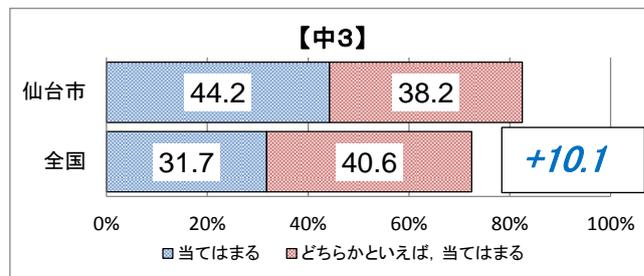
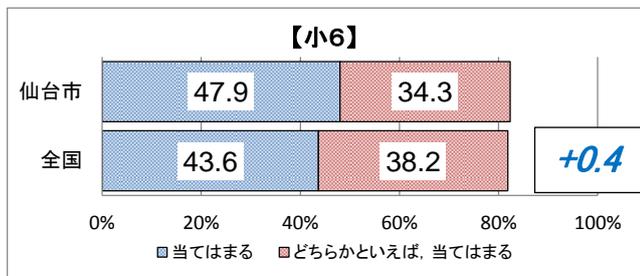
4 6. 理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか（月1回以上）



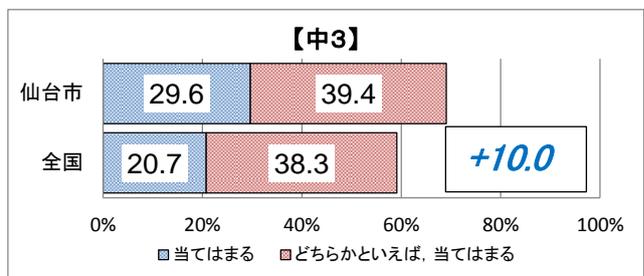
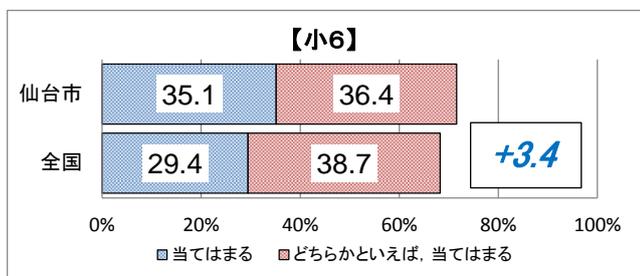
4 8. 理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか



49. 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか



50. 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか



□指導改善の方策

○ 観察・実験の内容の定着を図る指導

- ・ 確かな学力研修委員会における「提案授業の指導案や指導改善事例を集めた事例集」及び「高学年理科ワークシート集」の活用を通して、小学校理科における観察・実験の技能の定着を図り、さらに、主体的に計画・考察・振り返りに取り組ませるようにする。

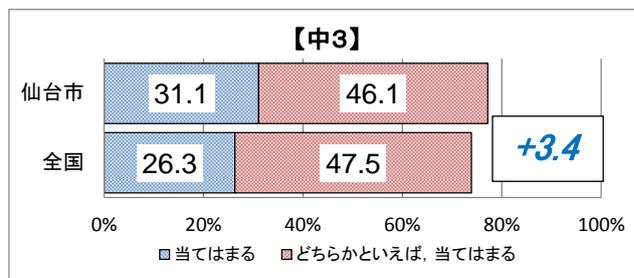
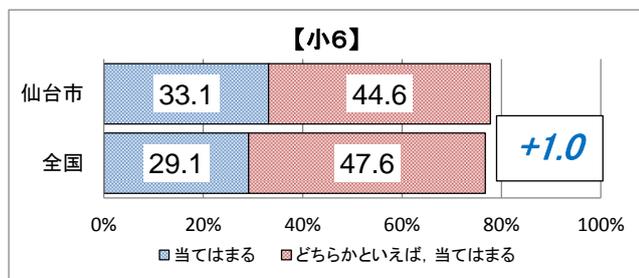
○ 実生活との関連を図り、学ぶ意欲を高める指導の工夫

- ・ 観察や実験等で習得した知識が実社会や実生活の中でどのように生かされているのか、また、どのような現象と関連しているのか示すことで、知識の更なる定着を図る。そうすることで、習得した知識を将来、社会のために活用する意欲を高め、学習する意義を見いだせるようにする。

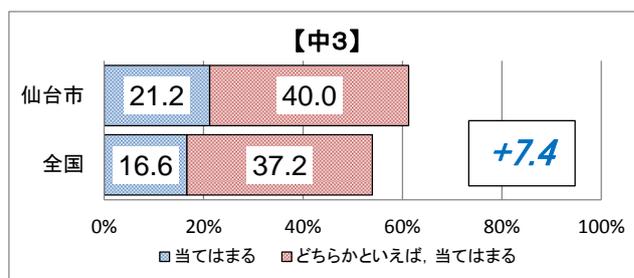
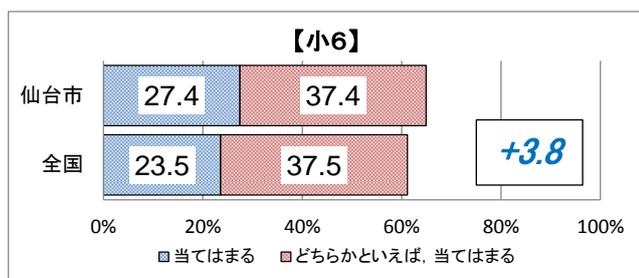
【分析結果 7】

主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善について、課題解決的な学習活動や言語活動に取り組んでいると回答した児童生徒の割合は、全国より上回っている。また、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していると回答した児童生徒の割合が高い。しかしながら、学力上位県と比較すると、なお努力が必要とされる。

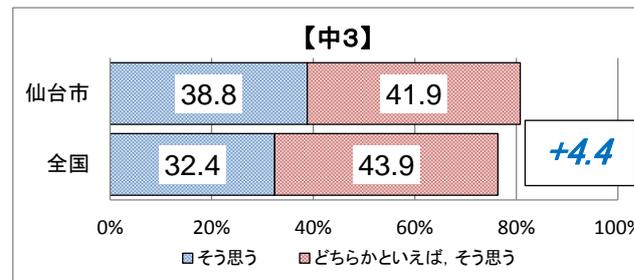
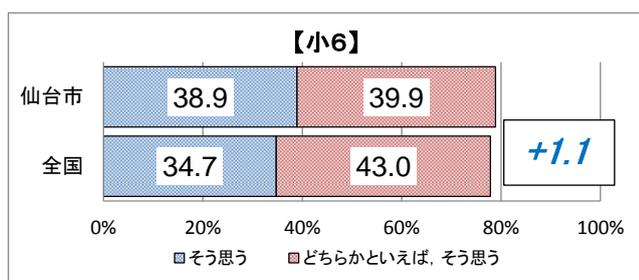
55. 授業では、課題の解決に向けて、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか（中52）



56. 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか（中53）



57. 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか（中54）



□指導改善の方策

○ 習得・活用及び探究を見通した指導方法の改善

- 各教科においては、児童生徒が自ら課題を見付け、課題を解決するためにこれまで習得した知識を活用し、更に学びを深められるような学習過程を取り入れた指導の工夫・改善に組織的に取り組むようにする。

○ 言語活動の土台を育成

- 「たくましく生きる力育成プログラムの授業プラン集」を生かすなど、考えを交流する活動を通して、互いの意見の良さや価値観の違いに気付いたり、尊重し合ったりすることで、多様な物の見方を身に付け、併せて、自信を持って意見を発表できるようにする。

平成30年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙調査の分析結果と改善方策(概要)

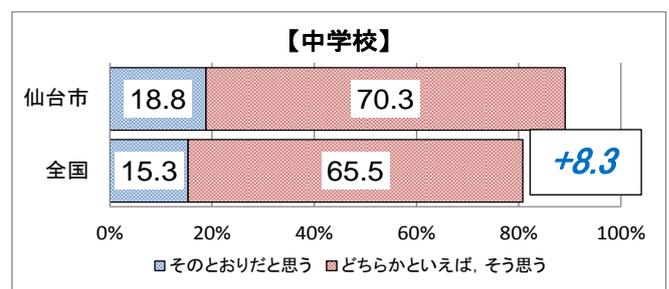
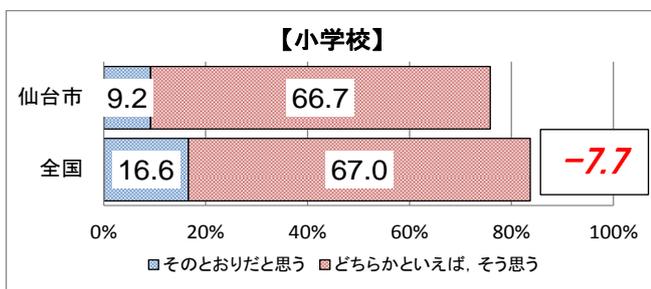
※全国との比較で、大きな違いがあった主な項目をまとめた。

(囲み内の数値は、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した学校の割合を合わせた数値と全国との差を示す)

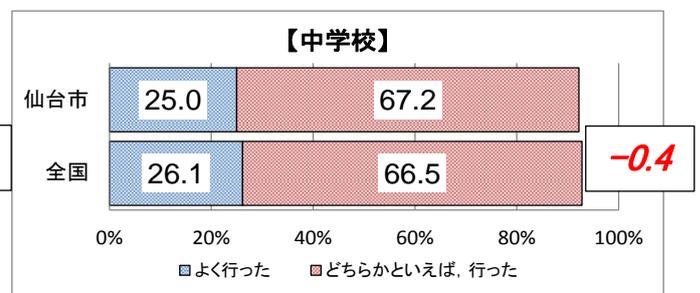
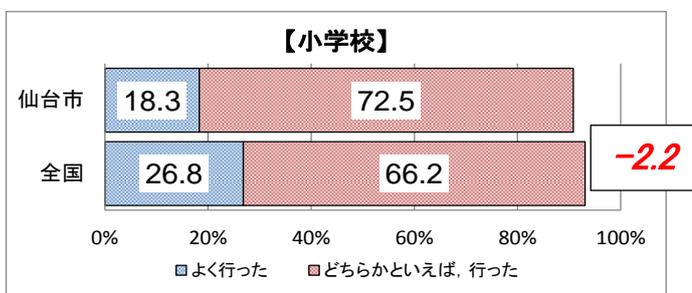
【分析結果 1】

児童生徒質問紙では、全国より高かったものの、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善への取組に関する項目について、「授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる」と回答した小学校の割合は、全国より下回っている。

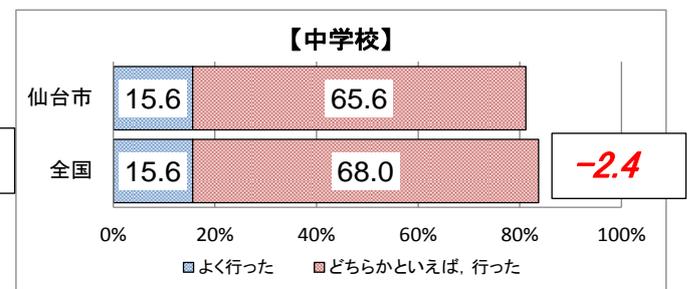
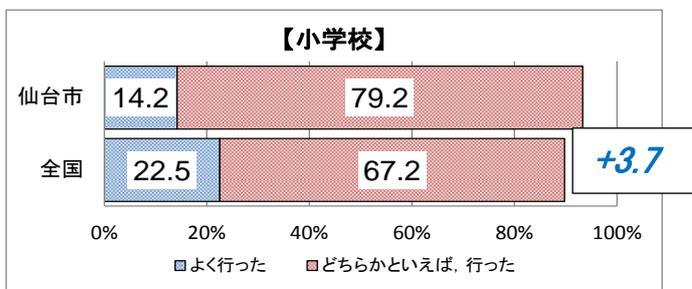
(1) 授業改善－1 児童生徒は、授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思う



(1) 授業改善－2 児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか



(1) 授業改善－3 児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか



□改善の方策

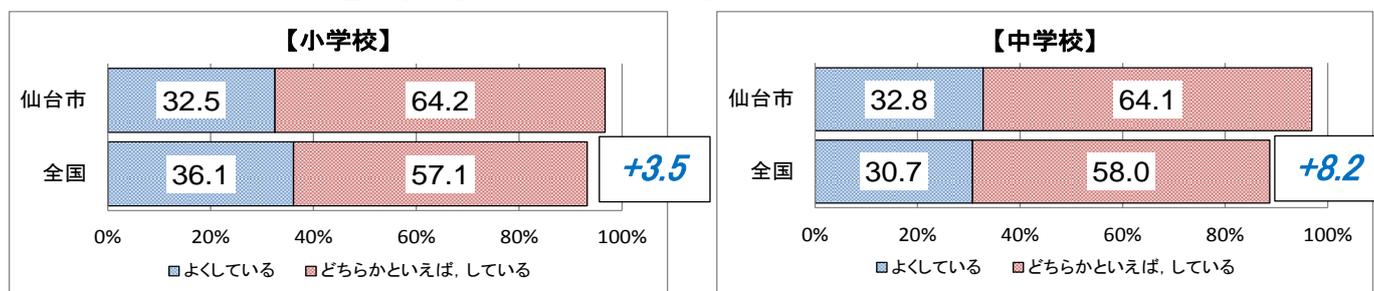
○ 習得・活用、探究の学習過程を見通した指導の組織的な改善・工夫

- ・課題を立てて、課題の解決に向けて、学習したことを活用し、更に学びを深める学習過程を取り入れた指導の改善・工夫を組織的に進めるようにする。

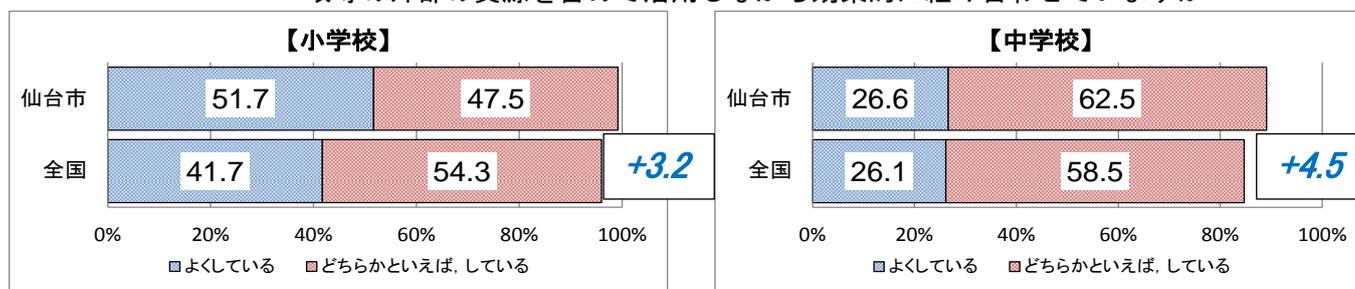
【分析結果 2】

カリキュラム・マネジメントを意識した学校運営に関する項目に肯定的に回答した小学校の割合は、全国と同等であり、中学校は全国を上回っている。

(2) 学校運営－2 教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか



(2) 学校運営－4 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか



□改善の方策

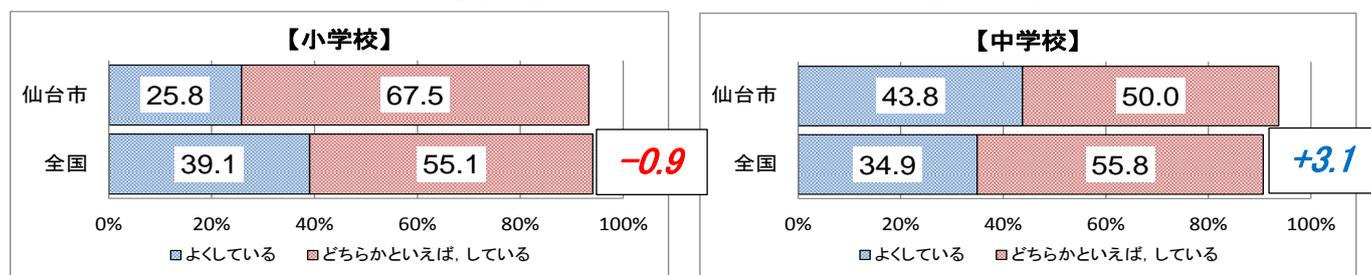
○ カリキュラム・マネジメントの視点からの教育課程の改善

- ・教育課程について、実施し、評価して改善を図る PDCA サイクルから不断に見直すというカリキュラム・マネジメントの視点から効果的な実践を図ることが求められている。子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や、仙台市標準学力検査等の各種データに基づき、教育課程を編成、実施し、評価して改善を図る PDCA サイクルをしっかりと確立するようにする。その際、「社会に開かれた教育課程」の視点から、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら実現するようにする。

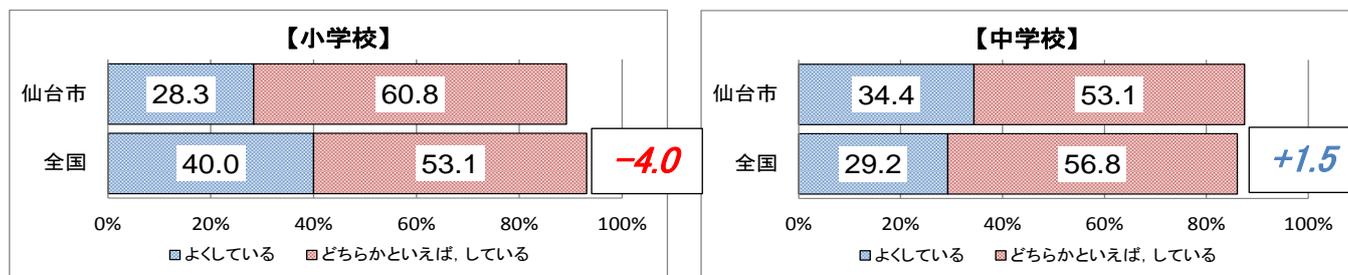
【分析結果 3】

言語活動に関する項目において、各教科等をとおして学校全体でよく取り組んでいると回答した中学校の割合は、全国と同等であるが、小学校においては、全国より下回る状況である。

(2) 学校運営－6 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか



(3) 教職員の資質向上－8 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか



□改善の方策

○ 学校全体での組織的な言語活動の実践

- ・主体的・対話的で深い学びの実現のためにも、学校全体で組織的に言語活動を取り入れ、評価、改善をして充実するようにする。また、国語で学習したことを基にして、各教科において「話す」「聞く」「読む」「書く」のバランスのとれた言語活動を展開できるような指導力の向上を図っていく。さらに、各学校における教科間の関連や学年を超えた系統的で意図的、計画的な言語活動が実施できるよう、カリキュラム・マネジメントを適正に行うようにする。

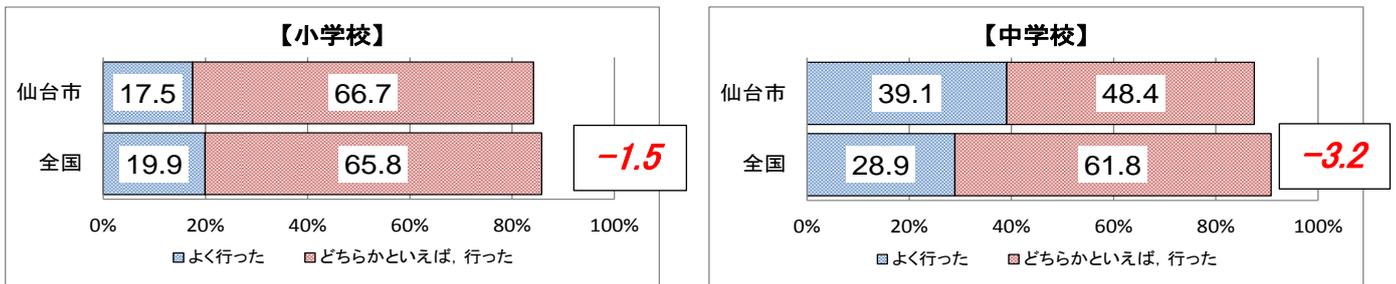
【分析結果 4】

理科の指導法において、実生活における事象との関連を図った授業をよく行っていると回答した小・中学校の割合は、全国を下回っている。

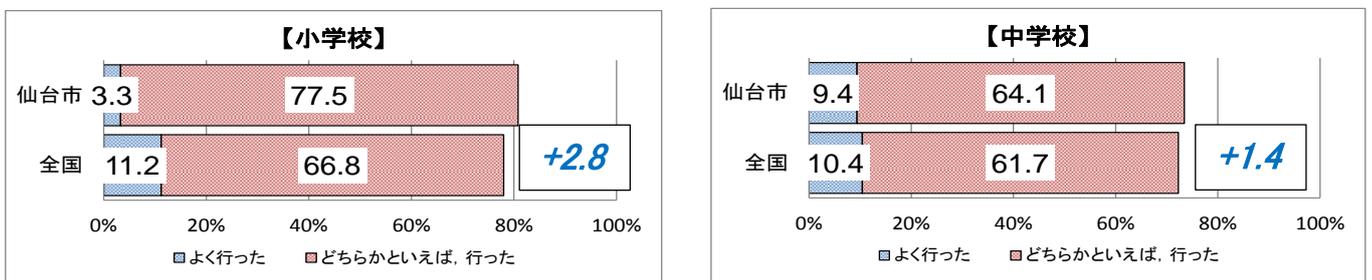
算数・数学の指導法に関する項目で、実生活における事象と関連を図った授業を行ったと回答した小・中学校の割合は、全国より上回っている。

地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行った小・中学校の割合は、全国を上回っているものの、教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている出来事を学習題材として取り扱ったと回答した中学校の割合は、全国よりも下回っている。

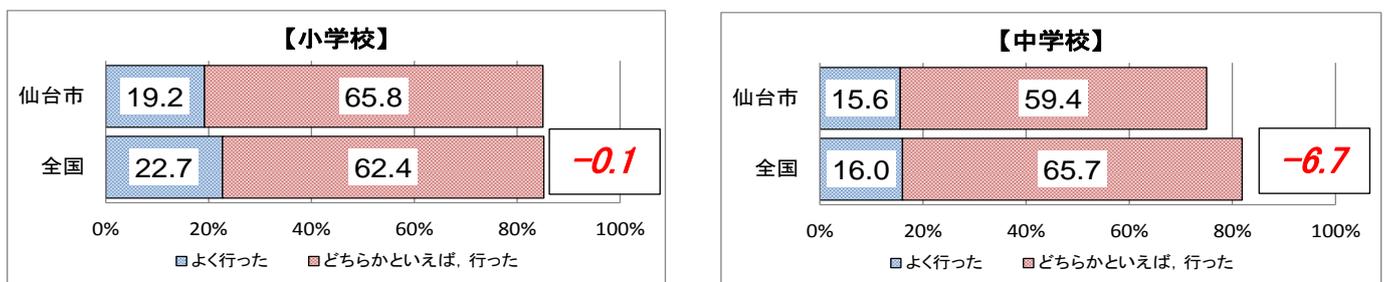
(4) 理科の指導法－4 児童生徒に対する理科の指導に関して、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



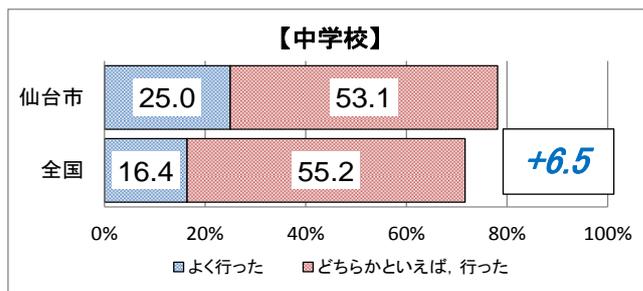
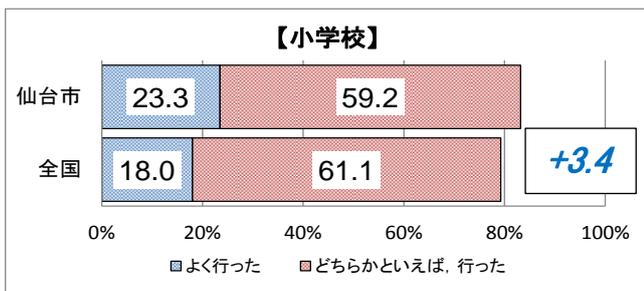
(5) 算数・数学科の指導法－3 児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



(11) 地域等に関わる学習活動等の取組－1 児童生徒に対して、前年度に、教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか



(11) 地域等に関わる学習活動等の取組－2 児童生徒に対して、前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか



□改善の方策

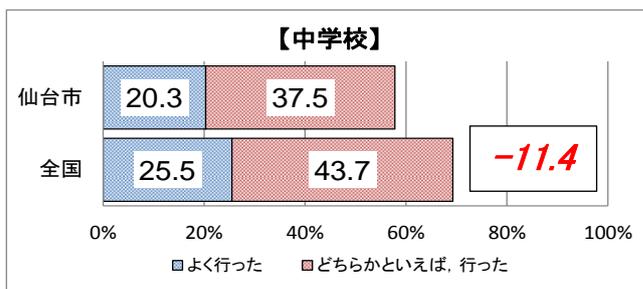
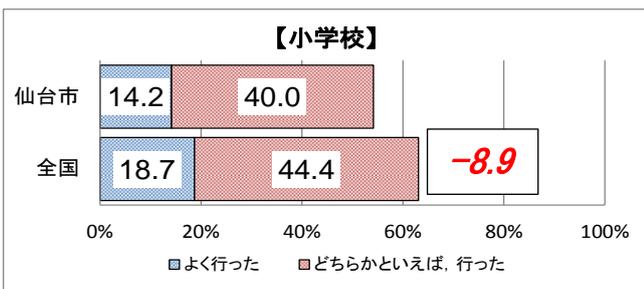
○ 実社会・実生活との関連付けを図った指導の充実

- 各教科において、習得した知識が実社会・実生活の中でどのように活用されているのか考えたり、話し合ったり、実社会・実生活から自ら見いだした課題を探究することを通して、学習する意義を見だし、学習する意欲を高める指導を実践する。併せて、「自分づくり教育」を推進し、「たくましく生きる力」を育成しながら、習得した知識を地域や社会のために活用する意義や必要性に気付かせ、活用を図る意欲を喚起するような指導をする。

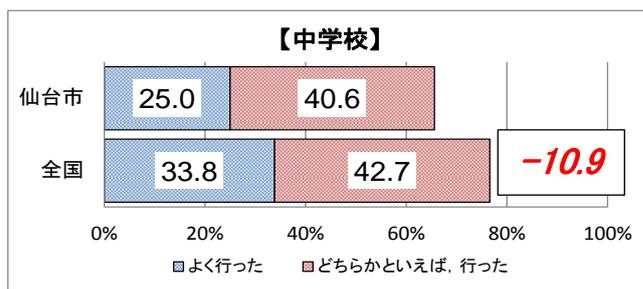
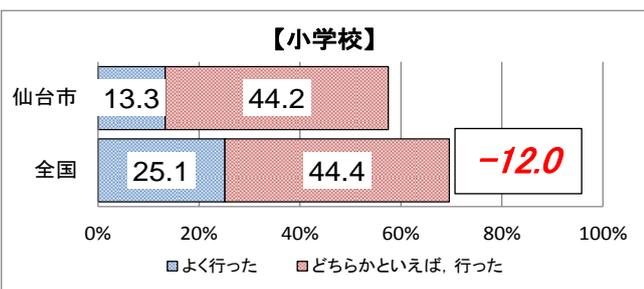
【分析結果 5】

学校種間の連携に関する項目では、小・中学校で教育課程に関する共通の取組を行った、授業研究など、合同して研修を行ったと回答した小・中学校の割合は、全国より下回っている。

(8) 学校種間の連携－1 学校では、前年度までに、近隣等の中学校・小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか



(8) 学校種間の連携－3 学校では、前年度までに、近隣等の中学校・小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか



□改善の方策

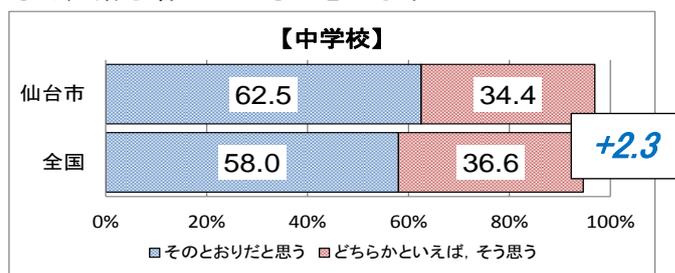
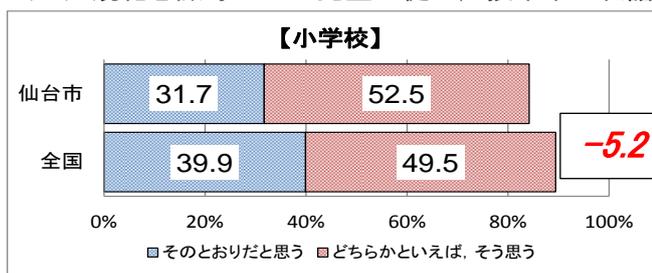
○ 小中連携の必要性を意識した取組

- ・ 9年間を見通して学校教育の質的向上を図っていく小中連携教育は、各中学校区において、中1ギャップの解消などの生徒指導とともに学力向上等からも、有効であることを小中学校双方の教員間で共有し、実状に応じた実践に取り組むようにする。

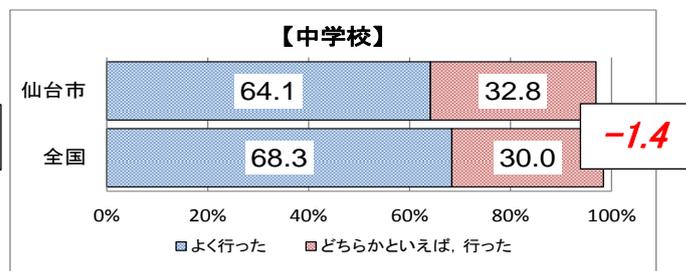
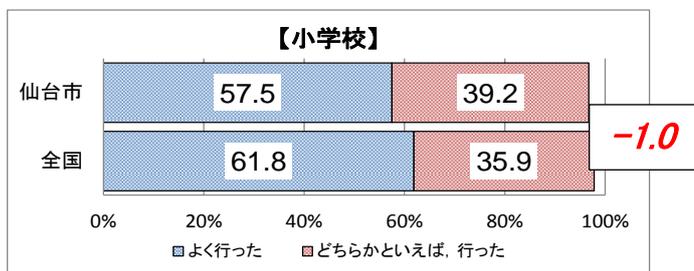
【分析結果 6】

規範意識に関する項目においては、児童生徒が授業中の私語が少なく、落ち着いていると思うと回答した割合は、小学校において、全国よりも下回っている。

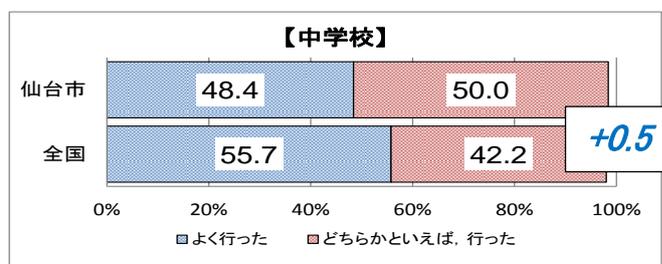
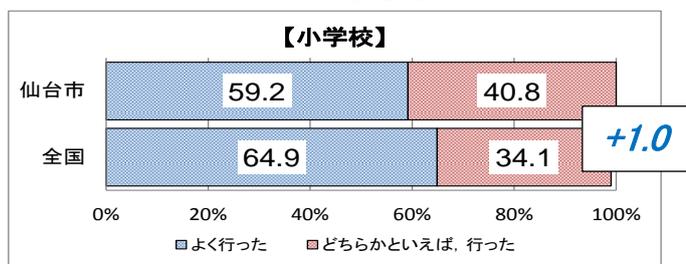
(9) 規範意識等－1 児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか



(9) 規範意識等－4 児童生徒に対して、前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか



(9) 規範意識等－5 児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、一人一人のよい点や可能性を見付け、児童生徒に伝えるなど積極的に評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか



□改善の方策

○ 児童生徒の成長軸に沿った評価

- ・ 児童生徒に目標や努力する点、工夫する点を考えさせ、その取組の過程を認めるなど、児童生徒の成長軸に沿った視点から適切に評価することで、児童生徒の自己有用感の向上を図る。

○ 集団への帰属意識を持たせる指導

- ・子供と積極的にコミュニケーションを図り、信頼関係を築くようにする。また、周囲の人に大切にされている、認められているという実感を持たせるようにし、併せて、集団の一員であるという意識や自覚を持たせるようにする。また、たくましく生きる力育成プログラム授業プラン集を活用するなど、児童生徒の非認知能力を高める取組を行い、自制心・自己管理能力の育成を図る。

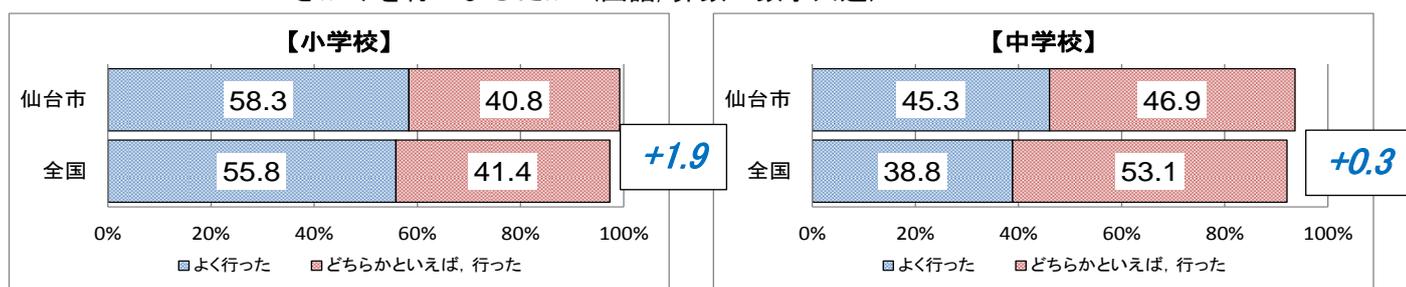
○ 学校と地域社会との連携

- ・学校・家庭・地域の連携を図り、地域の行事等に子供たちを積極的に参加させ、様々な年齢、価値観の人たちと関わり、認められることを通して自己有用感を高める取組を進める。

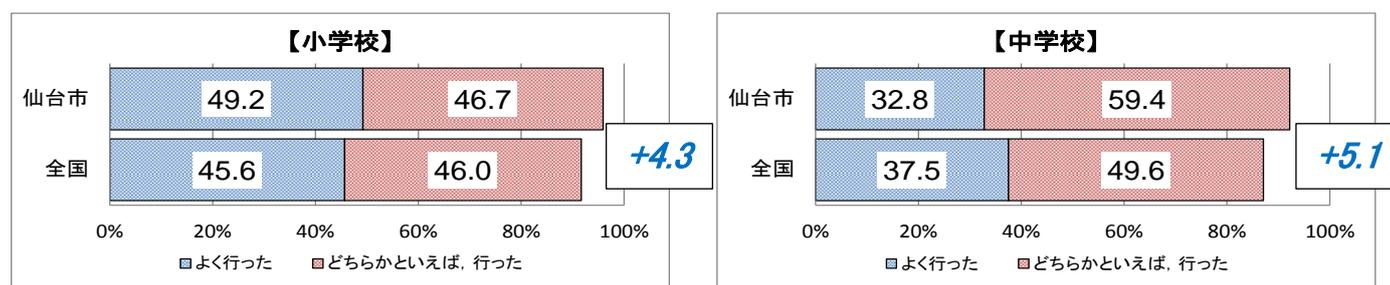
【分析結果 7】

家庭学習に関する項目において、課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ったと回答した小・中学校の割合は、全国を上回っている。

- (10) 家庭学習－1 児童生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか（国語/算数・数学共通）



- (10) 家庭学習－2 児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（国語/算数・数学共通）



□改善の方策

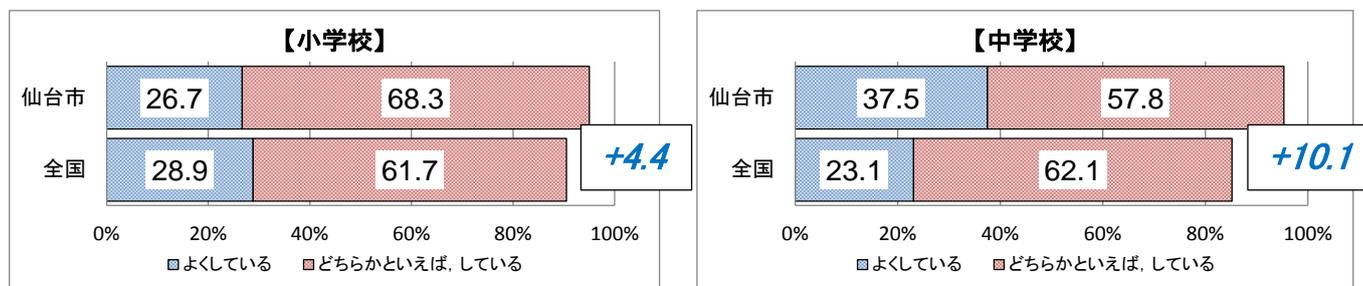
○ 家庭学習ノートと小中連携した取組の活用

- ・今後も、「家庭学習ノート仙台」を活用し、家庭において親子の対話を大切にしながら家庭学習に取り組むようにしたり、小中連携の取組として家庭学習の手引き等を作成し、活用したりして、家庭学習の習慣が身に付くような働き掛けを継続していく。

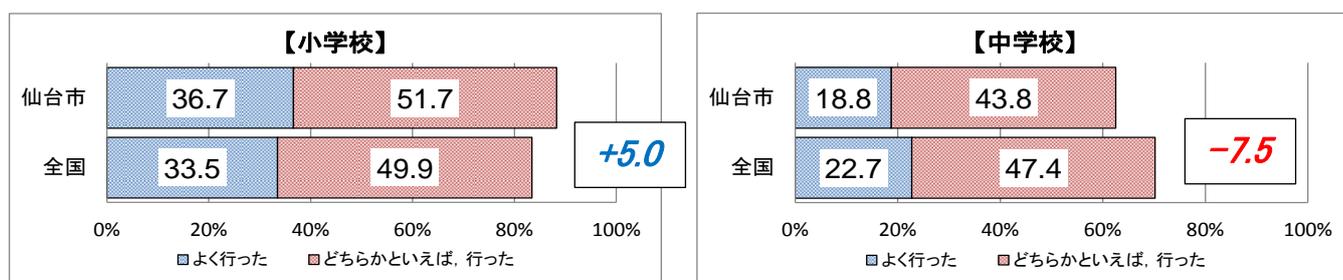
【分析結果 8】

地域との連携に関する項目において、学校支援地域本部を生かして、登下校の見守りや学習・部活動支援等、保護者や地域の人との協働による活動をよく行ったと回答した小・中学校は、全国を上回っている。

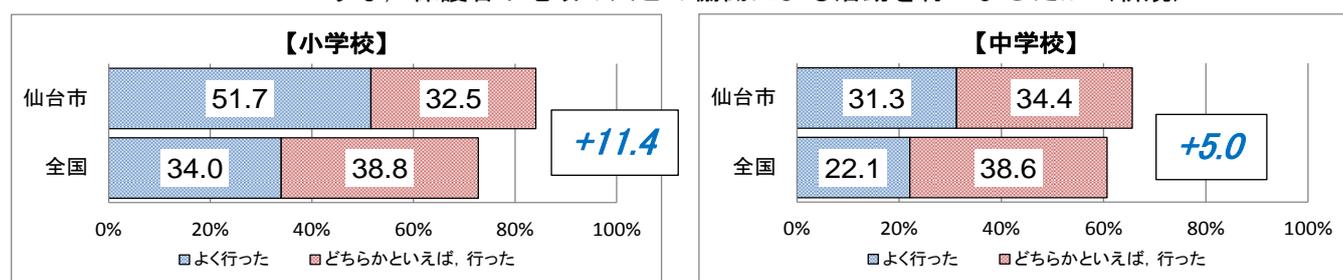
(12) 地域との連携－ 1 教育課程の趣旨について、家庭や地域と共有を図る取組を行っていますか



(12) 地域との連携－ 2 児童生徒に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか



(12) 地域との連携－ 6 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動のよう、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか（新規）



□改善の方策

○ 地域を生かした人的・物的資源の活用

- ・新学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」を打ち出しており、学校においては、地域連携担当教諭やスーパーバイザーを中心に教育活動の実施に必要な人的・物的な体制を整理して、意図的・計画的に保護者や地域に協力を要請するよう努める。